

女性と図書館

—ジェンダー視点から見る 過去・現在・未来

青木玲子・赤瀬美穂 著

四六判・290頁 定価2,970円(本体2,700円+税10%)

ISBN978-4-8169-2996-0 2024年2月刊行



明治期から現在まで
図書館は女性に
どんなサービス、資料提供を行ったか
これからの課題は…

- 婦人閲覧室、男女共同参画センター、女性情報ライブラリー、国立女性教育会館（NWEC、ヌエック）などでの女性情報の提供について、ジェンダーの観点から日本図書館史を考察した一冊です。
- 女性情報ライブラリーにおける多様な資料提供、女性史、女性学コレクション構築などを取り上げ、その存在意義を再確認できます。また、特色ある文庫（ウィメンズ アクション ネットワーク、山川菊栄文庫など）も紹介。
- 日本の図書館におけるジェンダー問題を可視化し、関連資料提供の際のヒントに。

目次

はじめに

第一章 図書館史から見える女性と図書館

1. 図書館を利用する女性たち
2. 婦人閲覧室があった時代の図書館で働く女性たち
3. 現存する婦人閲覧室を訪ねて

第二章 男女共同参画センター・ライブラリー

1. 戦後の図書館と女性
2. 全国的な男女共同参画センター・ライブラリーの成立
3. 女性情報を探して
4. 国立女性教育会館（NWEC、ヌエック）
5. 全国的な男女共同参画センター・ライブラリーの現在
6. これからの課題

第三章 過去・現在・未来をつなぐジェンダー情報

1. 過去 Sharing the Past（過去の事実を共有する）
2. 現在 Debating the Present（今を問う）
3. 未来 Creating the Future（未来を拓く）

おわりに

執筆分担

各章ごとの引用文献・参考文献

索引

* 「内容見本」と「著者プロフィール」は、裏面をご覧ください。

202401

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <https://www.nichigai.co.jp/>

注
文
書

女性と図書館

—ジェンダー視点から見る
過去・現在・未来

定価2,970円(本体2,700円+税10%)

ISBN978-4-8169-2996-0

冊

取扱書店



9784816929960

『女性と図書館 —ジェンダー視点から見る 過去・現在・未来』内容見本

第二章 男女共同参画センター・ライブラリー

明治期の図書館の「婦人閲覧室」で使われたように、女性を「婦人」と呼ぶ時代は長く続いた。女性のための施設は、婦人会館、団体などは婦人会と法律用語でもあった。一九七〇年代に設立された女性のための施設は、「婦人」が使われていたが、一九八〇年代半ばには、公的機関も婦人を「女性」と変更した。

一九九九年の「男女共同参画社会基本法」制定後、男女ともに利用する施設として「男女共同参画センター」となった。しかし、女性の社会的な地位は低く、まだまだ女性に対する支援が必要という意見をもとに、女性センターを名乗り続ける施設もある。またダイバーシティの考え方から、男女共同参画センターをダイバーシティセンターと、すでに改称したセンターもある。

本書では、固有名詞として使われる場合は、その名称を使用し、現在、男女共同参画センターが多数あることから、センターに附属するライブラリーの総称を男女共同参画センター・ライブラリーとする。また名称は違っても、女性のための施設、男女共同参画社会をめざす施設に

第一章 図書館史から見える女性と図書館

1

図書館を利用する女性たち

(1) 婦人閲覧室の存在と位置づけ

① 婦人閲覧室と普通閲覧室

明治・大正・昭和戦前期までのある程度の規模の図書館には、資料を閲覧するための部屋として、普通閲覧室、特別閲覧室、婦人閲覧室、児童室、新聞雑誌閲覧室などがあった。

普通閲覧室は、男子閲覧室や一般閲覧室、大閲覧室などとも呼ばれ、男性が利用する閲覧室である。対して、女性が閲覧に利用する部屋は婦人閲覧室である。婦人室、女子閲覧室などと呼ばれることもある。

ここで、普通閲覧室や一般閲覧室の「普通」や「一般」という言葉の意味を調べてみると、二つは共通しているところがある。どちらの意味も、当たり前で広く一般に通じることであり、世間一般の大多数の人々に共通のものなどである。

ただし、すべての成人に選挙権・被選挙権を与えるという普通選挙の例を見ても、当時の「普

2

全国的な男女共同参画センター・ライブラリーの成立

■ 著者プロフィール ■

青木 玲子 あおき・れいこ

1945年北海道生まれ。

東京都婦人情報センター・東京ウィメンズプラザ情報担当係主任専門員（1984～2001年）、越谷市男女共同参画支援センター所長（2001～2006年）、国立女性教育会館情報課客員研究員（2009～2020年）、東海ジェンダー研究所理事（2018年～現在）

【主要論文】「図書館とSDGs：ジェンダー視点をターゲットとして」『専門図書館』（306）2021年ほか。

赤瀬 美穂 あかせ・みほ

1950年愛媛県生まれ。

京都産業大学図書館勤務（1974～2010年度）、甲南大学文学部特任教授、司書課程担当（2011～2020年度）

【主要論文】青木玲子・赤瀬美穂「明治・大正・昭和戦前期の婦人閲覧室」『図書館文化史研究』第35号 2018年 ほか。